

令和4年度 広島県病害虫発生予察情報 予報第10号 (果樹)

令和5年3月13日発表 (対象期間：令和5年3月13日～5月中旬)

●PCでアクセス

ひろしま病害虫情報

掲載アドレス↓

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/>



●スマホでアクセス

ひろしま病害虫情報

QRコードはこちら →



お問い合わせ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム

〒739-0151 東広島市八本松町原6869

電話：082-420-9662 (直通)

※次回の予報発表は令和5年5月中旬ごろです。

1- (1)		かんきつ病害虫の現況と予報 (概要)	
病害虫名	現況	予報	防除上の注意事項
そうか病			<ul style="list-style-type: none"> ● 発生が確認された葉は、直ちに除去し、園外で処分しましょう。 ● 基幹防除を徹底しましょう。
かいよう病			<ul style="list-style-type: none"> ● 前作の着果過多や寒波の影響により、樹勢が著しく低下している場合は銅剤の散布を控えましょう。 ● 高度精製マシン油乳剤との散布間隔は14日以上あけましょう。
ミカンハダニ			<ul style="list-style-type: none"> ● 冬季にマシン油乳剤散布を行っていない場合は、必ず3月中の高度精製マシン油乳剤散布を行きましょう。ただし、寒波等で樹勢が低下している場合は、散布により落葉する場合がありますので注意します。
ヤノネカイガラムシ			<ul style="list-style-type: none"> ● 移動性が低く圃場の一部に集中して発生することが多いため、寄生部位を中心に周辺の枝葉、果実の状況を確認し、見つけ次第捕殺します。 ● 発生園で、冬季にマシン油乳剤の散布を行っていない場合は、必ず3月中に高度精製マシン油乳剤を散布しましょう。

※ほ場によっては、落葉や枝の枯れこみなど樹勢が低下している樹が見られました。3月の病害虫防除は非常に重要ですが、樹勢が著しく低下している場合は、高度精製マシン油乳剤や銅剤の散布を控えましょう。

①かいよう病	現況	平年並	予報	やや多
<p>予報の根拠</p> <p>(+) :多発要因 (±) :平年並 (-) :少発要因</p>	<p>●巡回調査では、レモン旧葉で発生地点率は54.2% (平年46.6%) , 発病葉率は2.9% (平年2.4%) であり、発生地点率はやや高く (+) , 発病葉率は平年並 (±) の発生でした。</p> <p>●巡回調査では、ネーブル旧葉で発生地点率は50.0% (平年40.5%) , 発病葉率0.7% (平年2.3%) であり、発生地点率は平年並 (±) , 発病葉率は平年に比べやや少ない (-) 発生でした。</p> <p>●向こう1か月の気温は高い確率が70% (+) , 降水量は平年並の確率が40%です (±) 。</p>			

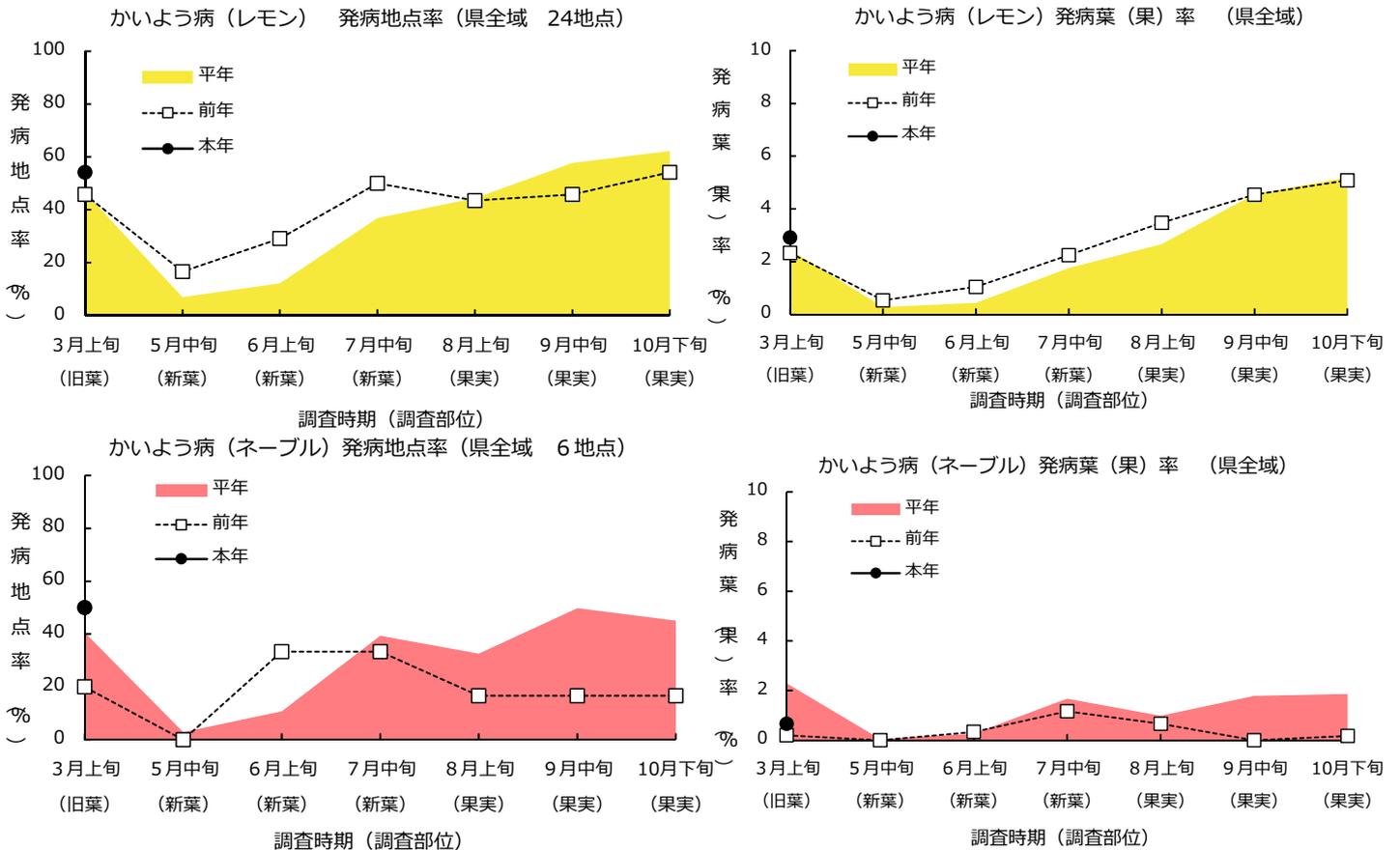
【防除上の注意事項】

- 発病した葉や枝, 果実は伝染源となりますので樹上から除去し, ほ場外に持ち出しましょう。
- 前作の着果過多や寒波の影響により樹勢が著しく低下している場合は銅剤の散布を控えましょう。
- 銅剤と高度精製マシン油乳剤との散布間隔は14日以上あけましょう。
- 散布適期は, 発芽前です。

ミカンハモグリガ食害痕からの夏秋梢の発病葉



【巡回調査データ】



②ミカンハダニ		現況	平年並	予報	やや多
予報の根拠	●巡回調査では、発生地点率は28.0% (平年30.0%) , 寄生葉率は1.2% (平年2.2%) で、発生地点率, 寄生葉率ともに平年並の発生でした (±)。				
(+) :多発要因 (±) :平年並 (-) :少発要因	●向こう1か月の気温は高い確率が70% (+) , 降水量は平年並の確率が40%です (±)。				

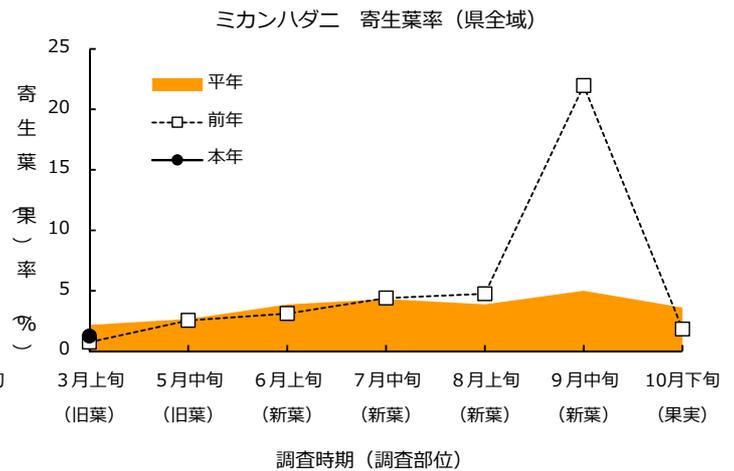
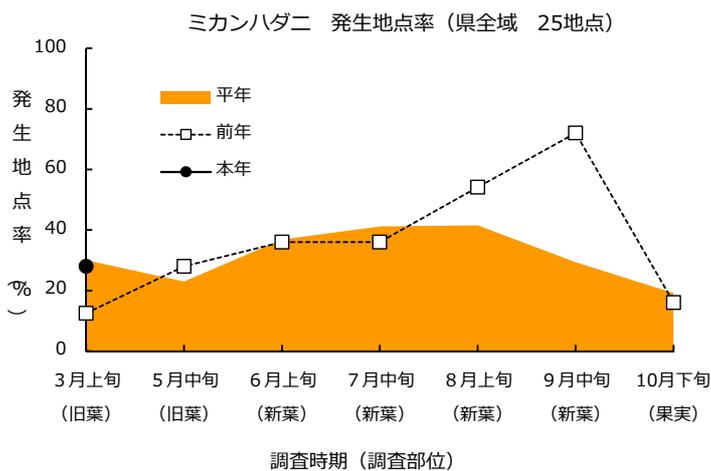
【防除上の注意事項】

● 冬季にマシン油乳剤散布を行っていないほ場では、必ず3月中に高度精製マシン油乳剤散布を行いましょう。

●ただし、寒波等で樹勢が低下している場合は、散布により落葉する場合がありますので注意します。



【巡回調査データ】



【現況・予報の区分について】

「現況」「予報」は、「多、やや多、並、やや少、少」の5階級に区分しています。区分は、原則として過去10年間の同時期の調査結果の数値を発生が多かった順に並べ、相対比較しています。

- 「多」 : 1番目 (最多年) と同程度以上
- 「やや多」 : 2~3番目と同程度
- 「並」 : 4~7番目と同程度
- 「やや少」 : 8~9番目と同程度
- 「少」 : 10番目 (最少年) と同程度以下

①果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ）

現況

並

予報

並

予報の根拠

(+) :多発要因
 (±) :平年並
 (-) :少発要因

●令和4年12月19日~令和5年2月2日に行ったチャバネアオカメムシ越冬量調査の結果、捕獲地点率は16.7%（図1），平均虫数は0.17頭/地点（図2）で，過去10年と比較して平年並の越冬量でした（±）。
 ※5月以降はフェロモントラップ調査データを，ひろしま病害虫情報に公開しますので，防除対策の参考にしてください。



A : チャバネアオカメムシ
 B : ツヤアオカメムシ
 C : クサギカメムシ

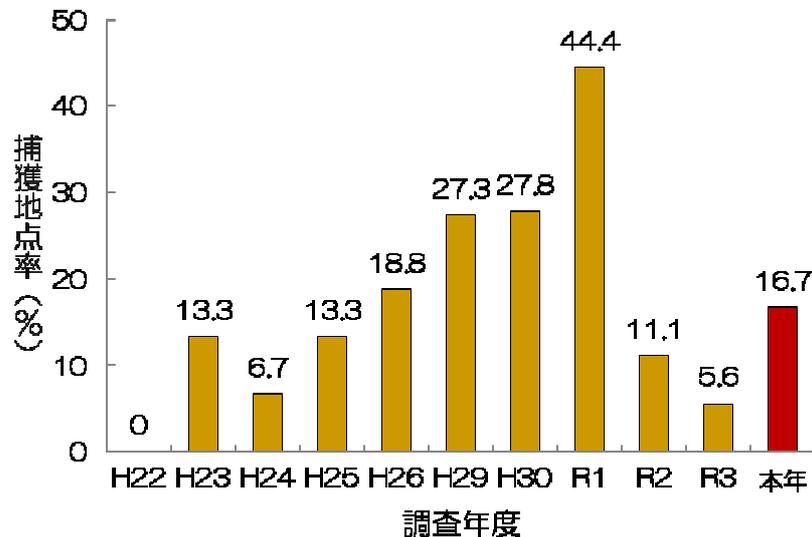


図1. チャバネアオカメムシの捕獲地点率

※H27, H28は調査地点数が少ないためデータから除外した。

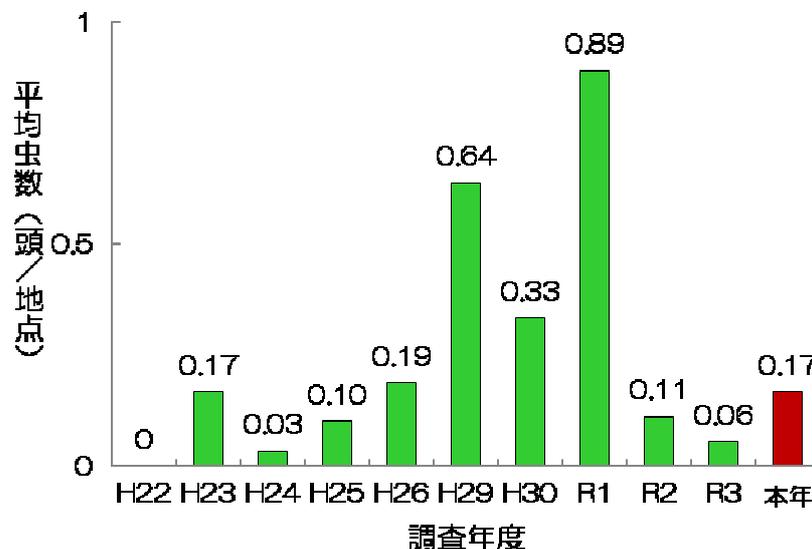


図2. チャバネアオカメムシの平均虫数

※H27, H28は調査地点数が少ないためデータから除外した。

(広島地方気象台 3月9日発表, 3月11日から4月10日までの天候見通し)

- 期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- 向こう1か月の平均気温は、高い確率が70%です。降水量、日照時間ともに、平年並の確率が40%です(図1)。
- 週別の気温は、平年より高い確率が1週目は80%、2週目は60%、3～4週目は50%です(図2)。

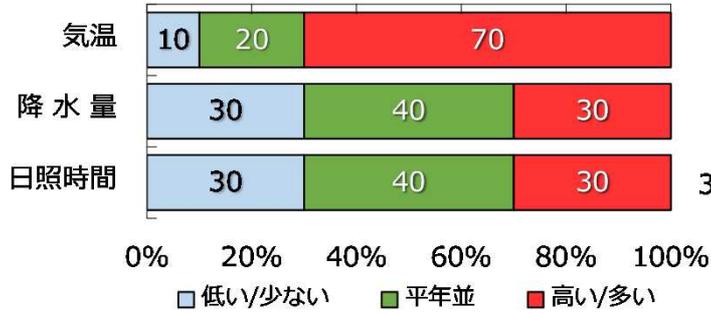


図1 向こう1か月の平均気温・降水量・日照時間の各階級の確率 (%)

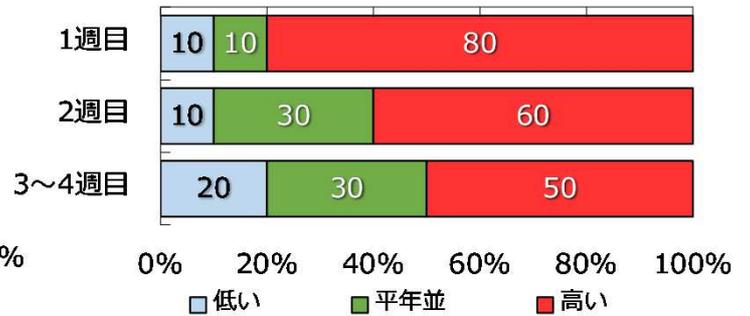


図2 向こう1か月の気温経過の各階級の確率 (%)